●シリーズ●わが町の文化財＜105＞

広島県重要文化財　**結界石**

昭和28年6月23日指定

結界石とは、寺域の四方に聖域を示すために建立されていた石柱のことです。この石柱は、今高野山の金剛寺が奈良西大寺に属する律宗寺院に所属した際、浄刹結界（聖域を示す）として、山門の四至四方に造立されたものです。現在3基が残されており、一基は上部を欠損しています。

これらのうち写真の右端のものは高さ1.08m、幅上部28cm、下部27.5cmの四角柱で、上部の高さ10cmの山形となっている。正面に「大界外相北方」の陰刻銘があります。

写真の中央のものは上半分を欠失しており、現存高58.5cm、上部幅26.5cm、下部幅28cmで、正面に「□方」の陰刻銘が見られます。

写真左端の石柱は、高さ1.05m、幅は上部27.5cm、下部は28cm。上部の山形部分は高さ11.5cm。正面に「大界外相西方」、左脇に南朝年号の「建武五年（一三三八）九月八日」の陰刻銘がありあます。

銘文中の「大界外相」とは、「大界」は霊域・聖域としての寺の内を指し示しており、「外相」は寺の外（世俗界）を指し示しています。

●シリーズ●わが町の文化財＜106＞

国重要文化財　**木造丹生明神坐像**
木造高野明神坐像

平成30年10月31日指定

大田庄が紀州高野山根本大塔領となった文治2年（一一八六）以降、大田庄の政所寺院として、紀州の高野山を模して「今高野山」が建立され、七堂伽藍・十二院を建立、一山の守護神として高野山に倣って両明神が祀られたものです。

両像とも像高62cm余りで、桧材の一木造。彩色された坐像でシンプルな中にも華やかさをもった、気品の高い優れた作で、同種の像では全国でも最大級で最古級の像です。顔以外は当初の彩色で保存状態も良く、特に丹生明神の持物である「さしば」は、片側が失われているものの残存例としては希少なものです。

本二社に伝わる二体の神像は、たび重なる災禍の中をくぐり抜けて伝えられた鎌倉時代の神像で、丹生神社の記載としては、正安3年（一三〇一）の高野山文書（原典国宝）「桑原方領家地頭和与状」には、「庄内寺社事」として「今高野社」（丹生神社）が領家進退（支配）の神社として記されています。

両社には神像のほかに鎌倉時代の獅子頭や狛犬などが伝わっています。